

減災に近づくために

いぬまにし  
岩沼西中学校

三年

鈴木

紗保

近年、激しい豪雨に子る土砂災害の被害が  
増えてきている子うに感じる。最近であると  
主に新潟に被害をも下らした縦状降水帯の停  
帯下の土砂災害が例にあがる。だがこの土砂  
被害下の死傷者は極めて少なく、自助や共助  
の力が高まってきた。とが分かった。し  
かし実際にその場所を訪れてみると、調べて  
みると道路が崩落していて通交止めになっ

いたり、山から水が垂れていたりして、危険  
な場所が所々あった。こうしたら被害が減る  
か。つまり、減災に近づくかを過去の事  
例から考えてみた。

日本は災害が起りやすい地形であり、昔  
から多くの被害を出してきた。減災に近  
づくためには過去の事例とそこから学んだ教  
訓を語り継ぐことか一つのポイントだと考え  
た。その根拠として、約五十年前の羽越水害  
での対策を祖母に教えてもらった。

羽越水害下は約二週間の豪雨による大規模な土石流が発生したと聞いた。祖母の近くの避難所は少し低い場所に位置しており、そこも被害にあっていた。だがそこでの犠牲者は少なくて、多くの命が守られたという。むむむらそここの地域に土砂災害を被災した経験者が過去で学んだことを生かし、皆を高台に避難させたためである。このように誰か一人でも過去から学んだ教訓を生かすことで、多くの命を救えることが分かる。

また、気候変動や地形に対応していくことも大切だと考えた。広島や熱海での土砂災害の原因として、土砂災害の起る地形と、雨や風によりさらされる花こう岩でできており、雨や風によりさらされるともろくなっている。それに近い熱海は集水地帯と呼ばれる雨が集まりやすい地形であり、盛りに土に落ちて地滑りが起きやすい地形であり、たりする。さらに急な勾配に住宅があたり、たり、インフラ整備の老朽化が進ん

でしたり（国土交通省より）と地球温暖化等  
 の影響による気候変動や地震が起きやすか  
 たり。雨風に弱いなどの地形にまた順応でき  
 ていないのではいかと考えた。  
 では具体的に何とすれば良いのか。私に  
 案を考えてみた。

二つ目は土砂災害の学習する機会を増やす  
 ということだ。地震や津波など勉強する機  
 会は多いが土砂災害に対する勉強する機会が  
 少ないのではいかと感じた。過去の事例や

教訓をともに土砂災害が起る前兆や対応な  
 どをもっと学ばば減災につなげるのではかと思  
 った。

二つ目は、国、県、市町村が行っている土  
 砂災害に対しての工夫を調べてみることだ。  
 ハザードマップではもちろん、砂防ダムが建  
 っている場所など確認したり、調べてみること  
 で土砂災害への興味が深まり、家や心の備え  
 が充実すると考えた。また土砂災害シヤルに  
 ついて調べ、目安を想像しておいても良いと

う。

今年は大砂災害が身近な場所  
で起きた。見て感じることで  
沢山のことに学ぶ。ヤ  
タ。とうれしく更に減災に  
近づくと。かえるか。これ  
からも調べたり、勉強した  
り、経験したりして追求して  
いきたい。